

項目番号	項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目		
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	介護の中に生活の視点を入れた良質なサービスの提供。「自分らしさを大切に暮らし」と具体化され日々ケアを行っている。	
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア会議の中で職員は情報を確認、共有している。	
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	季刊誌の発行、行事を通して近所付き合いや家族と施設の関係を身近なものにするように努めている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行事を行う時は近隣にお声を掛け参加を促している。又、日々の散歩での挨拶は積極的に行っている。	
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には参加していないが、町内会の盆踊りや小学校の祭りには入居者と参加している。	
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○ 平成18年12月に小金地区高齢者支援連絡会が発足され、専門委員として参加している。今後の活動に期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	安心して暮らしていただけるよう、その人に合った支援方法をケア会議を通じ、共有し日々精進している。	
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		○ 平成18年3月10日(土)第1回運営推進会議を予定しており今後の活動に期待したい。
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員担当者会議に参加し活動報告や意見交換を行っている。	
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		○ 認識はしているが知識としては不十分と思われるので研修や講演に参加していきたい。
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は身体拘束を行わない事を認識し実践している。	○ 認識はしているが知識としては不十分と思われるので研修や講演に参加していきたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図って	契約時、重要事項のわかりやすい説明、明示を行い同意を得ている。	
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は常に聞き入れる姿勢でケアに従事している。又、月1回の介護相談員の活動報告から、普段聞けない要望や不満を知る事もある。	

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「1ヶ月の生活の様子」、年4回の季刊誌、現金出納表の作成をし郵送している。家族には、アルバムを贈り、入居者の生活ぶりを写真に撮り毎月送っている。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情、改善、要望、提案等をいつでも受けられるよう玄関に投書箱を設けている。家族会、運営推進会議の実施		
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議で職員の意見を聞き、会議議事録にて上告している。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状態に応じて安全が確保されない場合は、人員を増やし対応している。又、病院受診などは家族に代わって職員が行う事もある。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮を	各ユニットの常勤者はフロア勤務を固定する事で「なじみの関係」を作りやすくしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内勉強会ではニーズに応じた内容を企画しているので参加しやすくなっている。外部研修は費用の援助があり、個人でも受講しやすい体制になっている。		
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム、デイサービスの行事に参加させてもらったり、招待することで入居者、職員の交流を図っている。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員親睦会を行い、気分転換を図っている。又、有給休暇を利用し、心身ともにリフレッシュできる環境を提供している。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員に係りを担当させることで責任感が出て、成果を求めて各自が努力している。例えば、賄いの会計、生協発注、理美容の受付業務など。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前面談を行い本人の不安や日々の生活についてを詳しく調べている。		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人面談と同様、家族面談も行っている。本人と意思疎通が図れない場合は家族からの聞き取りが重要になる。生活暦などセンター方式の書類を活用している。		
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設サービス計画書の「生活に対する意向」を参考にする。又、より多くの本人の情報を集めケア会議にてケアプランの作成を行い支援していく。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	環境の変化で混乱が起きやすいので特に注意して支援する。お茶をしながら入居者や職員の紹介をしたり、施設見学や使い方などを説明し施設に慣れていただくことから始めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活でのほんの些細な出来事も共に共有し、喜び合う。面会時には一緒にお茶をしながら昔の話を伺う事も大切な情報収集となっている。		
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活でのほんの些細な出来事も共に共有し、喜び合う。面会時には一緒にお茶をしながら昔の話を伺う事も大切な情報収集となっている。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居するまでの苦勞を踏まえそれを理解し支援していくことで家族関係を築いている。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通い慣れた店に出かけたり、しばらく会っていない方には電話や年賀状で交流を図っている。		
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	おやつや食事はリビングにてほぼ全員が顔を合わせている。又部屋に閉じこもらないよう適度な声掛けにて、リビングで習字や歌を歌って退屈させないようにしている。		
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方にも行事の案内状を出している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
<b>1. 一人ひとりの把握</b>						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し把握に努めている。		
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用している。又、入居前のサービス利用については前ケアマネに情報を提供していただいている。		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の意向を第一に考え支援しているが、閉じこもり、寝たきりにならぬよう声掛けし離床を心掛けている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア会議の参加者は職員のみだが、医師や薬剤師からは事前に注意点を、家族には予め要望を伺っている。状態の変化が著しい時は、その都度会議を行いケアの統一を図っている。		
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成して	状態の変化に合わせてケア計画の見直しも随時行っている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日を時間を追って介護記録に記入している。又、入居者申し送りノートを活用し家族への連絡事項やケアでの注意点などを記入し情報の共有とケアの統一を図っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・外泊(自宅)、外出(食事、季節行事)支援 ・敷地内の畑で入居者が栽培 ・移送支援(緊急時のみ) ・医療連携体制の整備等の機能として備え支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年間を通してボランティア、月1回の介護相談員の受け入れや消防訓練を行っている。		
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		○	小金地区の高齢者支援連絡会を通じて、地域で暮らす独居者がどのように日々暮らしているのか、見回り、相談等が必要かどうか今後の課題である。
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	契約時に後見人を立てているが、地域包括支援センターとの協働している実績はない。	○	来年度より、地域包括支援センターが増えるので、権利擁護、高齢者虐待に関する支援等を積極的に取り組んでいきたい。
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療機関であり24時間体制、月2回の往診がある。いつでも相談、助言、指示が受けられる。		
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		○	現在専門医の診察を受けている方はいない。継続的に診察を受けられる環境と生活の支援が同時に行えれば、より安定した生活が送れるのではないかと期待する。
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診日以外の週1回、医療連携体制加算の訪問看護の訪問がある。日々の健康管理をさせていただいている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連	母体が医療機関であり、医師、看護師、相談員と施設との連携は取れている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医、看護師、家族、職員との面談で最期をどのように迎えるか、緊急時の対応を再度確認する機会を設けている。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医、看護師、訪問看護、家族、職員との連携を蜜にし支えている。		
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐこと	個人情報や家族了解の基、情報の交換、情報の共有を行っている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>						
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の誘導、介助は他入居者に気づかれないう、さりげなく行っている。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	品物1つとっても2個あればどちらかを選んでいただき、やりたい事、食べたいものをその方が理解できる方法で伝達している。		
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、本人のペースで支援している。時間をかけ、職員を変え、声掛けの仕方を変えるなどして工夫している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	地域の床屋、訪問理美容を本人、家族の希望に合わせて利用している。(毛染め、顔そり、パーマ等)		
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材選び、調理、盛り付け、かたづけなど個人の状況に応じて手伝いを分担している。食事は目で楽しみ、口で楽しむ。又食事は職員も同じ時間に同じテーブルで取る事で雰囲気も大切にしている。		
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒の保管は職員で行っているが、毎日の晩酌の時間が本人にとって至福な時である。これを楽しみに生活している。		
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	排泄表をつける事で本人の排泄パターンを知る事ができ、失敗が少なくなる。オムツは外しが何例もある。		
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望で、毎日入られる方、夕食後に入られる方、さまざまである。本人の体調を考慮し臨機応変に対応している。		
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし夜に十分睡眠が取れるように心掛けている。就寝時間、起床時間、人それぞれである。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩が好きの方、歌の好きな方、各自の好みを大切にしている。やりたくない事は無理強いはない。		
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員がおこなっているが、日用品の購入は可能な限りその本人と買物に行くようにしている。		
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	各ユニット、2日に1度の買出し、近所への散歩、無人販売での野菜の購入などで出入りは頻繁にある。可能な限り訴え時には断らず出かけるようにしている。		
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者全員でのピクニック、花見、フロアごとの外食に外出している。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い、年賀状を送っている。家族から本人への電話も繋いでいる。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間の制限がないので自由に来所していただける。自室やリビング、階段の踊り場に場所を確保している。		
(4)安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いつでも自由に動ける状態が前提である。危険なく行動できるようイスの配置や本人の動きに注意をしている。		
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	弊害は理解しているが、職員が手薄になる時には施錠している時間帯もある。1階の玄関は日中鍵はかかっている。センサーが設置されてはいるが、過信しすぎないように心掛けている。		
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	監視しすぎず常に所在確認を行いながら介助に入っている。夜勤帯は特に物音を察知できるようリビングで待機している。		
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所、保管方法を決め事故のないよう細心の注意を払っている。		
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	経験から得た教訓にし再発防止に努めている。		
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の指導により火災時の避難方法、心肺蘇生法等は習得している。意識不明の救急対応は行うが、その他の発熱や緊急を要しない場合は主治医の指示を仰いでいる。		
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練で夜間想定で訓練したり、実際に避難用すべり台を使用して訓練している。		
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居面談の際、「自由と危険」について我が施設の考えを話している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	「いつもと何か違う」些細な事を見逃さない。直ぐにバイタル測定し主治医の指示を仰ぐ。職員、家族、に速やかに伝達し対応している。		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量の過ちがないよう薬剤師と連絡を取り合っている。薬と食事の相互関係を把握する。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく下剤は使用せず、自然排便が望ましい。腹部マッサージ、水分を多く摂取したり、適度な運動を心掛けて食事では繊維質を多く取るように気をつけている。		
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを行っているが、無理強いはせず根気よく声をかけている。夜は義歯の洗浄を行っている。週1回訪問歯科が来所し歯の治療や口腔ケアをしてくださる。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った摂取しやすい形で水分補給をしている。食事がうまく摂取できない方には栄養補助食品で補うようにしている。		
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルがあり、発症時にはマニュアルに沿って対応するようになっている。手摺りやトイレなどは専用の消毒液を使用している。		
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾、まな板の殺菌消毒。料理の作り置きはしない。食材の買出しは1日おきに行っている。在庫をためずある食材で献立を考えるようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>						
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前から門まではスロープになっていて、建物の周りには植物が多く植えてあるので施設ばくない。駐車場では近所の子供たちが遊ぶ姿も見られる。		
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	殺風景すぎず、又幼稚になりすぎず部屋の装飾を考えている。季節のものを飾ることで春夏秋冬を感じてもらいたいと思っている。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に座る場所は決めていないが、入居者各自で「自分の席」を決めていて自然と同じ場所に座っている。		
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際の持ち物として「使い慣れたもの」をお願いしている。家族の写真や仏壇もあり安心した個人の空間といえる。		
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除は勿論の事、必要に応じて喚起を心掛けている。また、自分で体温調節ができない方には職員が注意してこまめに脱ぎ着している。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>						

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいき たい内容 (すでに取り組んで いることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるように手摺りや、下駄箱の前にはイスを配置し自立支援を心掛けている。		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋には解りやすい表札があり家庭的な雰囲気を出している。		
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	駐車場では納涼祭、もちつきを行い庭の畑では旬の野菜がたくさん収穫できる。ウッドデッキではカレーパーティーや迎え火、送り火などの行事も行っている。		

(様式1)

### 自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほほ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほほ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	①ほほ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほほ全ての利用者がころへ出かけている ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほほ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94		利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	①ほほ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほほ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほほ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98		職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない